KYU-KYO JUMP!
TALK SESSION & LIVE

九州大学HME養成講座+九州交響楽団連携事業

九響ジャンプ！
トークセッション&ライブ

第一部 トークセッション「時代と向き合うオーケストラ」

パネリスト：飯森範親（指揮者）、池田和正（読売新聞記者）
塩次喜代明（福岡女子大学教授）、末次誠（九響専務理事）
中山欽吾（大分県立芸術文化短期大学学長）（50音順）
コーディネーター：中村滋延（九州大学大学院教授）

第二部 ライブ「オーケストラが愛を語る」

演奏：九州交響楽団　　ナビゲーター：飯森範親
曲目：ベートーヴェン「フィデリオ序曲」（1814）　指揮：飯森範親
中村滋延「ラーマヤナ―愛と死（交響曲第４番）」（2006）　指揮：船橋洋介
チャイコフスキー「フランチェスカ・ダ・リミニ」（1873）　指揮：船橋洋介

飯森範親

船橋洋介

平成26年2月17日（月） 開場18:00／開演18:30
会　場：**FFG ホール**（元福岡銀行本店ホール）
入場料：全席自由 前売り 一般¥1,500（当日¥1,800）
学生¥1,000（当日¥1,200）

発売所：◉九響チケットサービス ☎092-823-0101
※ご自宅まで送料無料でチケットを郵送いたします。
（受付時間／平日：午前9時30分～午後5時30分）
◉アクロス福岡チケットセンター ☎092-725-9112
（チケットぴあ取扱いのた窓口のみ）
◉チケットぴあ ☎0570-02-9999【Pコード220-088】
◉ローソンチケット ☎0570-084-008【Lコード82933】
問合せ：スリーオクロック ☎092-732-1688

主催：九州大学大学院芸術工学研究院ホールマネジメントエンジニア養成講座
共催：公益財団法人九州交響楽団
後援：福岡県、福岡市、（公財）福岡市文化芸術振興財団

創造 × 交感＝オーケストラの力

九州大学大学院芸術工学府は、平成25年度文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」の一環として、「ホールマネジメントエンジニア（HME）養成講座」を開講します。この度、開講に併せて地域のオーケストラとして音楽活動に取り組んでいる九州交響楽団と連携し、より活発な音楽環境の整備に寄与することを目的に企画したものです。

九響を愛する音楽愛好者、ジャーナリスト、教育者、指揮者らが一同に会し、オーケストラの可能性を様々な角度から論議します。オーケストラの創造行為から演奏プログラム、そして社会的使命まで、これまで論議されることの少なかったテーマを自由闊達に会場の参加者と共に考える場にできたらと期待しています。また、第二部では、福岡でも人気沸騰中の指揮者 飯森範親がナビゲーターとして再登場し、若手指揮者の船橋洋介と共にユニークな演奏プログラムに挑みます。プログラムのテーマは「愛の物語」です。19世紀初期の音楽から19世紀ロマン派の音楽、そして21世紀の音楽です。西洋音楽の持つ〈感情表現〉の側面にスポット当てつつ、地元の現代作曲家の作品も選んでみました。

近年にない知的好奇心と遊びごころ満載のプログラムをお楽しみ下さい。

プログラム

第一部　**トークセッション「時代と向き合うオーケストラ」**

パネリスト：飯森範親（指揮者）、池田和正（読売新聞記者）
塩次喜代明（福岡女子大学教授）
末次誠（九響専務理事）
中山欽吾（大分県立芸術文化短期大学学長）（50音順）

コーディネーター：中村滋延（九州大学大学院教授）

第二部　**ライブ「オーケストラが愛を語る」**

演奏：九州交響楽団
ナビゲーター：飯森範親
指揮：飯森範親、船橋洋介
曲目：ベートーヴェン「フィデリオ序曲」（1814）
中村滋延「ラーマヤナ―愛と死（交響曲第４番）」（2006）
チャイコフスキー「フランチェスカ・ダ・リミニ」（1873）

曲目紹介

ベートーヴェン「フィデリオ序曲」

ベートーヴェン唯一のオペラ〈フィデリオ〉のための４つ目の序曲。元のタイトルが〈フィデリオ、別名、夫婦愛〉であったように、まさに夫婦愛を扱っている。特に女性のふかい愛や誠実さ、また勇気や不屈性を謳ったもので、音楽もそのことを象徴的に表現している。

中村滋延「ラーマヤナ―愛と死〈交響曲第4番〉」

「ラーマヤナ」はインド起源の叙事詩で、南アジアや東南アジアに広く流布しているポピュラーな物語。シータ姫の「愛」に支えられたラーマ王子の成長譚を扱った作品。2006年に小鍛冶邦隆指揮東京交響楽団によって初演され、尾高賞候補になった。審査員の一人故若杉弘には「ぜひとも指揮してみたい作品」と激賞された。

チャイコフスキー「フランチェスカ・ダ・リミニ」

交響詩と銘打たれてはいないが、実質的には交響詩。13世紀のイタリアを舞台にボレンタ家の美しい姫フランチェスカが、父の命令で宿敵マラテスタ家との和解のため、同家の長男ジョヴァンニのもとへ嫁ぐものの、その義理の弟である美青年パオロと恋に落ち、不幸な最期を遂げてしまう。

出演者紹介

飯森範親（いいもり・のりちか）　指揮者
桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。01年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督（GMD）に着任し、日本ツアーも成功に導いた。国内では94年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、現在は正指揮者。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、07年より山形交響楽団音楽監督に就任。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。
オフィシャル・ホームページ　www.iimori-norichika.com

船橋洋介（ふなはし・ようすけ）　指揮者
東京音楽大学ピアノ科卒業。同大学指揮研究科修了。「プラハの春」をはじめ数々の国際コンクールで入賞。チョン・ミョンフン、フェドセーエフなどの絶大な信頼を受け、特にオペラ・合唱付き作品で深い洞察力を発揮。11/12シーズンは、12年5月に長岡にて、カール・ジェンキンス《平和への道程》の日本で初めてとなる全曲演奏会を行う。また都響、東京フィル、東響、大阪フィル等への客演を始め、ますますの国内外での活躍が期待されている。06年より長岡市芸術文化振興財団音楽アドヴァイザー。

中山欽吾（なかやま・きんご）　大分県立芸術文化短期大学理事長兼学長
大分市出身　九州大学工学部卒。三井金属鉱業（株）米国法人社長を経て、1997年より二期会事務局に入局。（公財）東京二期会常務理事、現在に至る。2013年4月よりiichiko総合文化センター館長に就任。

池田和正（いけだ・かずまさ）　読売新聞記者
早稲田大学法学部卒。2001年より西部本社文化部で、各地の音楽祭や九州交響楽団を取材。現在、読売新聞上の音楽批評のほか、演奏年鑑「音楽界展望　九州」等に執筆。
2013年3月読売新聞で「喝采のなかで　九響60周年の課題」を連載した。

塩次喜代明（しおつぐ・きよあき）　福岡女子大学教授
九州大学卒業後、民間企業勤務を経て神戸大学大学院で経営学専攻。専門は経営管理、企業戦略論だが、副専攻は音楽鑑賞。傍ら国内外の出張先でも必ず音楽会場に足を運ぶほどの音楽愛好者を自負。九州大学名誉教授。

末次誠（すえつぐ・まこと）　公益財団法人九州交響楽団専務理事
佐賀県出身。昭和55年3月慶應義塾大学卒業。九州電力株式会社入社し、経理・企画・労務など経験。その後財団法人九州・山口経済連合会、特定非営利活動法人九州・アジア経営塾事務局長を経て、平成23年7月より現職。

中村滋延（なかむら・しげのぶ）　九州大学大学院芸術工学研究院教授
作曲家／メディアアーティスト。交響曲4曲を含む100曲近くを作曲。また「音楽系メディアアート」という領域を創成し、映像を伴うコンピュータ音楽などを多数制作。2010年福岡市文化賞受賞。

九州大学大学院芸術工学研究院
ホールマネジメントエンジニア養成講座

平成25年度文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」の一つとして開講する社会人を対象としたアートマネジメント人材養成講座です。劇場・音楽堂や各種文化芸術団体などにおいて企画・施設運営・公演など実務に従事されている方などを対象に、昨年成立した「劇場法」で重要課題としている芸術・マネジメント・工学に関する広範囲な分野での知識習得とプロジェクト推進による実践力強化を目指します。
http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/HME_Yousei/

平成 25 年度　文化庁
大学を活用した文化芸術推進事業